

第 96 号
2013.9

北海道 米麦改良

稲作

- ・ 水稲収穫後のほ場管理
- ・ 平成25年度 水稲作柄現地調査報告書

検査

- ・ 平成25年産米の初検査

麦作

- ・ 春まき小麦「初冬まき栽培」のポイント
- ・ 第34回(平成25年度)北海道麦作共励会の参加者・集団を募集しています



平成25年度 水稲作柄現地調査(厚沢部町)

会報誌「北海道米麦改良」はホームページでもご覧になれます。

<http://www.beibaku.net/>

一般社団法人 北海道米麦改良協会

売れる米を 低コストで 安定生産

めざそう 小麦の 品質向上

農産物検査の信頼性確保
を目指して

JA グループ北海道は一丸となって
農産物検査の信頼性確保に努めています

も く じ

稲 作	水稲収穫後のほ場管理.....	1
	平成25年度 水稲作柄現地調査報告書.....	5
検 査	平成25年産米の初検査.....	10
麦 作	春まき小麦「初冬まき栽培」のポイント.....	11
	第34回（平成25年度）北海道麦作共励会の参加者・集団を募集しています ...	15

稲 作

水稻収穫後のほ場管理

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 農業研究本部 企画調整部

地域技術グループ 主査 笛木伸彦

本年は春先の低温が長引いたことにより、播種後の発芽および苗の生育が大幅に遅れた地域もあったようですが、移植後は順調に活着・生育し、水稻の生育は概ねやや良で推移しています（8月15日現在）。

栽培期間中のほ場管理としては、冷害を回避するための深水管理や土壌還元対策としての中干しなどが重要なのは言うまでもありませんが、水稻収穫後のほ場管理も重要です。

水稻収穫後には、稲わらの搬出、心土破碎やミゾ掘りなどの透排水性改善対策、あぜの補修などを行う必要があります、これらは作業性を改善させるのみならず、収量、品質を高めるためにも重要です。

1. 稲わらの搬出

収穫後の稲わらをほ場に放置したままにしておくと、土壌表面からの水分蒸発が抑制されますので、ほ場が乾きにくくなり、作業性や乾土効果を低下させます。また、稲わらはC/N比（炭素含量と窒素含量の比率）が高く、そのまま鋤込むとワキの原因となって初期生育を抑制し、さらに生育後期の窒素過多を引き起こし、米のタンパク質含有率を高めるなど、生育、収量、品質に悪影響を及ぼします。

すなわち、稲わらは搬出し十分にたい肥化してからほ場に還元することが望まれます。水田への稲わらたい肥の施用量は年間1t/10a程度とし、施用に伴い化学肥料を減肥します。

作業等の都合からどうしても稲わらを搬出できない場合は、稲わらの分解を促進させることで悪影響を緩和します。たい肥化の場合も同様ですが、稲わら等の有機物を分解させるには、十分な空気（酸素）と適度な水分、そして微生物の働きが必要です。ほ場においては、土壌表面に浅く混和することで、分解が促進されます。プラウで土壌に深く鋤込まれた稲わらや、ほ場表面に放置された稲わらの分解が進まないのは、それぞれ酸素不足、

水分不足が主な原因です。土壌中には微生物がたくさんいますから、土壌と混和すれば稲わらが微生物に触れる機会が増えるので、分解の促進が期待できます。

なお、稲わらの野焼きは、交通障害や大気汚染の原因となるので、絶対に行わないようにしましょう。



写真1 稲わらの搬出

2. いもち病発生ほ場での稲わら処理

乾燥状態が保たれた稲わらでは、いもち病菌が翌春まで生存し感染源となります。そこで、いもち病が発生したほ場では、未発生ほ場以上に搬出を励行し、たい肥化して十分に腐熟させることで、病原菌の死滅を図ります。

また、稲わらロールバールなど乾燥状態が

保たれる可能性がある状態で水田の周辺に放置することは避けるとともに、保管する場合にも水田や育苗ハウスからできるだけ離れた場所を選ぶ必要があります。

回収し切れずにほ場表面に残された稲わらも、天候や土壌条件によっては稲わら内部の乾燥状態が保たれ、いもち病の感染源となる可能性があるため、稲わら内部まで湿潤状態が確保されるよう、土壌中に混和します。

3. 透排水性の改善

透排水性が良好なほ場では、落水後の土壌の乾きが早く、収穫後の稲わらの搬出が容易になるとともに、刈り株など搬出されなかった残さや、土壌表面に混和した稲わらの分解が進みます。融雪後には耕起、碎土などの機械作業が順調に進むだけでなく、土壌窒素の無機化が進み、水稻の初期生育にも良い影響が出ます。湛水期には適度な減水深が確保されるため、地温が上昇し、ワキが軽減される、ねらった時期に中干しができる、などの効果が期待できます。

ほ場の透排水性を抜本的に改善するには、基盤整備工事による暗きよの施工が有効ですが、施工コストや事業化に至る時間を考えると、生産者が自ら実施可能な透排水性改善対策の導入も必要です。

既に施工されている暗きよの機能が低下している場合には、暗きよの埋設部分にモミガラなどの疎水材を投入すると排水機能が回復することがあります。

暗きよの機能を維持・向上させるためには、心土破碎の施工が効果的です。心土破碎の効果を高めるには、ほ場が乾いた時に、できるだけゆっくりと施工することです。土壌水分が高い時に急いで施工しても、せっかく作ったミゾはすぐに癒着してしまいます。また、集めた水を排水するために、暗きよと交わるように施工します。心土破碎と同時に作溝にモミガラを充填するモミガラ暗きよは排水改善効果が高く、また長期間にわたって効果が



写真2 心土破碎



写真3 表面排水はミゾ掘りで

持続します。

大雨の後や長雨、融雪期に表面滞水が発生するほ場では、ミゾ掘り（ほ場内作溝明渠）によって排水します。ただし、ミゾを落水口につなぐなど、集めた水をほ場外に排出する工夫を怠ると、十分な効果が得られません。

なお、抜本的な対策としての暗きよ施工ですが、その効果を十分に発揮させるには、土壌が過湿状態での施工は避けること、埋め戻し土はできるだけ乾燥させること、作業機による過剰な踏み固めを回避すること、などの点に留意する必要があります。

4. あぜの補修など

冷害を軽減するための基本技術である深水管理は、あぜの高さが不十分であったり、削られていて水が漏れる、などのことがあると十分な湛水深を確保できないことがあります。また、施肥や除草剤施用後にあぜを伝って漏水が起きると、効果が劣るのみならず環境汚

染につながります。畑地と隣り合っている場合には、漏水によって畑作物に湿害を及ぼす危険もあります。降雪前にあぜの状況を確認し、補修を行いましょ。

排水溝が土砂や雑草でふさがっていたり、落水口が田面より高くなっていたりすることがあります。この場合、排水溝の清掃を行い、落水口を低くして機能を回復させる必要があります。



写真 4 畦の補修

5. 土壌診断

良質米の生産、肥料コストの低減のためには、土壌診断に基づく施肥対応の活用が有効です。「北海道施肥ガイド2010」では、土壌の分析値に対応した窒素、リン酸、カリ、苦土、さらにはケイ酸施肥量が示されています。水田土壌ではリン酸やカリが蓄積している傾向にあり、土壌分析値にもよりますが、多くのほ場ではリン酸で最大50%程度、カリで最大30%程度の減肥が可能です。また、たい肥等の有機物を施用した場合には、それから供給される養分を考慮して減肥する必要があります。

土壌診断には時間がかかりますので、降雪



写真 5 土壌診断を行い施肥設計に活用しましょう

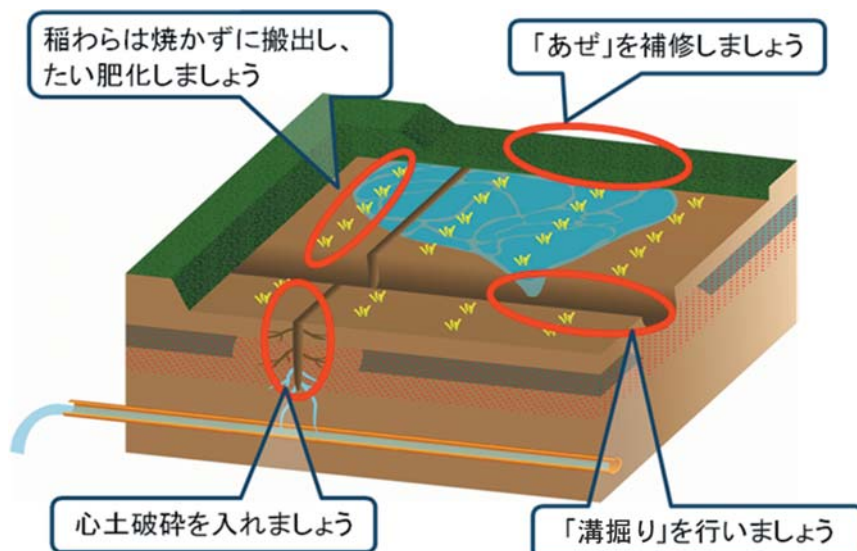


図 収穫後のほ場管理のポイント

前に土壌を採取し、分析機関に依頼します。
なお、土壌分析値は、変化の大きい無機態窒素を除けば、通常3～4年程度継続して利用することが可能ですが、大きな幅の減肥対応や有機物を多量施用した場合には土壌診断の頻度を高めます。「北海道施肥ガイド2010」を活用した施肥設計の詳細は、お近くの農業改良普及センターなどにお問い合わせ下さい。

稲 作

平成25年度 水稻作柄現地調査報告書

平成25年 9 月
一般社団法人 北海道米麦改良協会

【調査月日】 平成25年 8 月26日(月)～28日(水)

【調査先】

- ◎道南班：当別町・蘭越町・道南農業試験場・北斗市・厚沢部町・今金町・厚真町・長沼町・中央農業試験場（水田農業 G）
- ◎道央・道北班：美唄市・新十津川町・深川市・沼田町・留萌市・小平町・士別市・上川農業試験場・旭川市・東川町・中富良野町
（各市町のほ場は、現地奨決ほ場を中心に調査）

【参加人数】 約80名（部分参加含む）

【総合検討会】平成25年 8 月28日(水) 空知農業会館 4 階大会議室

本年度も標記調査の実施にあたり、道農政部・農業改良普及センター・道総研農業試験場・地区米麦改良協会等、関係機関の皆様にご協力・ご配慮をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

本調査で得られました各地区の作柄概況や総合検討会で纏められました、今後の収穫作業や次年度に向けた留意事項について、下記のとおりご報告致します。

つきましては、内容をご査収いただくとともに、今後の取り進めにあたって引き続き、ご配慮いただきたくよろしく申し上げます。



1. 各地区における作柄概況について

【道南地区】

- ・春先の低温寡照により、苗の生育や移植作業は平年より遅れたが、移植後は高温多照に転じ、初期分けつは旺盛に推移した。
- ・幼穂形成期から冷害危険期にかけての気温も確保されたことから生育は早まり、順調

に推移したが、7月下旬の寡照により出穂は緩慢となった。（出穂期は渡島・檜山とも早3日と6・7月の生育進度からペースダウンした。）

- ・初期の分けつが旺盛であったことから、莖数が、平年を大きく上回る時期もあったが、最終的な葉数・穂数は、地区・品種により異なるものの、概ね、平年並み～やや多い



程度となる見込みである。

- ・ 8月2半旬以降の気温が高く推移したことから、不稔は総じて少ない傾向にあり、また、病害虫の被害も少ないことから、平年作を上回る作柄が見込まれる。

【後志地区】

- ・ は種期、移植期の平年より遅れたものの、6月以降の好天により、生育も早まり、出穂期は平年より6日早まった。
- ・ 7月下旬の日照不足により穂揃いが良くなく、早期異常出穂したほ場も目立っている。
- ・ 草丈・葉数は平年並で推移しているが、茎数は平年より多く（8/15現在、平年比120%）推移しており、穂数も同程度となっていることから、平年を上回る収量が見込まれる。
- ・ 穂揃いが不良なため、上にある穂は黄熟が進んでいるが、下の穂はまだ青い。このため、こまめな試し刈りが必要。



- ・ 地区全体としては、平年よりも早く生育が進み、9/9以降に成熟期を迎えるほ場が多くなると見込まれる。

【日胆地区】

- ・ は種時期が遅れ、育苗期間中も低温で経過したが、移植時の苗質はほぼ平年並みを確保し、移植作業や活着期も大きく遅れることがなかった。
- ・ 移植後の生育は良好で、生育が早まるとともに、葉数・茎数もやや多く推移している。
- ・ 穂長は長く、穂数はやや多い生育状況となっており、また、高温で経過したことから、登熟は良好に推移し、平年より一週間程度早い生育進捗となっている。

【石狩地区】

- ・ 融雪遅れにより、耕起作業・は種作業・移植作業が平年より大幅に遅れ、活着期で6日遅れ（北部地区）であった。
- ・ しかしながら、移植後の好天により、植え傷みは少なく、生育遅れは回復し、茎数も平年並～やや多い状態で経過している。
- ・ 平年より3日程度早い生育となっており、穂数・籾数は平年並みであるが、穂揃いがやや不良である。
- ・ 不稔は平年よりやや少ない見込みであるが、ほ場間で生育差がやや大きい。

【空知地区】

- ・南部では、育苗・移植期の作業・生育は遅れ、移植期は平年対比3日遅れとなったが、移植期以降は高温・多照傾向にあったことから活着は良好で、分けつ期以降、幼穂形成期・出穂期・登熟期にかけて順調に推移してきている。
- ・生育遅速は、黄熟期で平年より1日早く、早いほ場では9/10前後に成熟期に達することが見込まれる。
- ・不稔は平年よりやや少なく、稔実粒数は1㎡あたり、28,000～29,000粒程度と見込まれる。
- ・中央部（美唄・新十津川）の生育は、南部と同様の傾向であるが、出穂期で3日程度早い生育となっており、不稔歩合は平年よりかなり少なく、㎡当たりの籾数も平年並み以上が見込まれる。
- ・千粒重も平年以上が見込めそうであり、平年を上回る収量が期待できる状況である。
- ・成熟期（成苗なつぼし）はさらに早まり、9/5～6前後（早7日）が見込まれる。
- ・夜温が高く、乳白の発生が心配される。
- ・北部（深川・沼田）の生育についても、順調に登熟が進んでおり、茎数（穂数）も平年並以上に確保されており、不稔もかなり少なく、千粒重も高いと見込まれることから、平年以上の収量が期待できそうである。
- ・黄熟期で5日程度生育が早まっている。
- ・懸念としては、収穫適期を間近に控えているが、8月下旬に入ってから降雨でほ場がぬかるんでいることや、地域別・個人的に生育差が大きいことがあげられる。

【留萌地区】

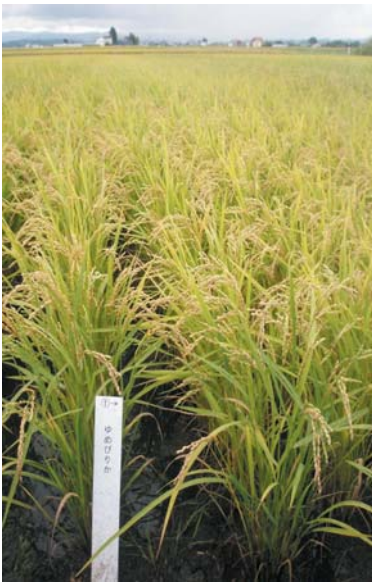
- ・移植終が6月上旬になるなど、融雪遅れから作業・生育進度は遅れていたが、出穂期以降は平年より早まり（出穂揃で早3日）、病害の発生も少なく、不稔も5%以下と少ない見込みであるなど、順調に推移している。



- ・ただし、穂数やもみ数はそれほど多くはなく、概ね平年並み程度の作柄と見込まれる。
- ・また、留萌地区では、従来の奨励ほ場の他、昨年度の北海道優良米生産出荷共励会で最優秀賞を受賞した中尾氏（留萌市）のほ場を視察させて頂きました。
- ・収穫間近のほ場を視察しながら、本年の作業・生育が融雪遅れの影響を受けたこと、研修会の講演で伺っていた水管理の苦勞についてのお話などを聞かせて頂きました。
- ・「(本年産米の) 茎数はやや物足りなく、収量は何とか平年並み程度。タンパクは止葉の色を見ると、まだ窒素を吸収していると思われるなど、心配な面が多く、まだわからない。当たり前のことに取り組んでおり、特に工夫らしい工夫もしていない」とのコメントでありましたが、暗渠の整備の他、側条施肥・ケイ酸資材散布など、様々な角度から良質米生産に取り組まれ、良好な生育にあるほ場を視察させて頂きました。

【上川地区】

- ・北部では、初期生育が良好であり、8/1の調査時点までは平年を上回る茎数が確保されてきたが、無効茎が多くなり、最終的な穂数・籾数は平年よりやや少なくなる見通しである。
- ・不稔は低く、登熟も順調に進んでいるが、8月下旬の寡照・降雨により、生育進度はやや停滞してきている。



- ・収量は、(見込みどおり平年を上回る)千粒重が確保されれば、平年並みに達すると見込まれる。
- ・本年の特徴としては、移植期が早いほ場ほど、茎数(穂数)が確保され、収量がある傾向にあるとのことで、上川農試でも同様の話があった。
- ・中央部(永山・東川)でも、生育が早く進み(出穂揃で早6~7日)、不稔も少なく、順調に生育しているが、茎数(穂数)や千粒重は平年並みかやや下回る状況であり、籾数も30,000粒/m²程度にとどまる(平年並みかやや少なめ)見込みであることから、最終的な収量は平年並みと見込んでいる。

- ・東川の一部ほ場では、8/27に刈取が開始されたが、中央部全体としては、9/5過ぎに刈取のピークとなる見込みである。
- ・南部でも、生育が早く推移し、一部では8月中の刈取が見込まれ、収量も稔実籾数が30,000粒/m²確保され、ほぼ平年並みの作柄が見込まれるが、遅れ穂が多く、穂揃いやほ場状態が悪いことから、実際の刈取作業は、やや遅れる見込みである。

2. 総合検討会における協議事項について

- (1) 両班による調査終了後、道農政部(上川農試在勤)竹内上席普及指導員を座長とする総合検討会を開催し、本調査のまとめと課題整理を行いました。
- (2) 各地区の作柄状況については上記のとおりであるが、全道的な傾向としては春先の低温で育苗や移植作業は遅れたものの、移植後は概ね順調に気象が推移したことから活着は良好であり、茎数・穂数も概ね確保されている。
- (3) 一方、無効茎が多く発生し、最終的な穂数が平年を下回る地区もあることや、穂長が短い、一穂もみ数が少ない地区もあることなどから、最終的なもみ数はそれほど多くないことが見込まれる。
- (4) ただし、不稔は全道的にかなり低いことが見込まれ、このことを勘案すると、全道的な収量については「平年並みかやや良い」見通しにあると纏められた。
- (5) 品質については、アミロース含有率は低いことが見込まれるものの、タンパク質含有率については、まだ窒素吸収をしている稲も見受けられることから高まる懸念があるなど、見通し難い面もあるが、(不稔が回避され、千粒重が確保されるなど)収量がある程度確保されれば、(窒素が分散し)それほど上昇しないのではないかという見解も示された。
- (6) 収穫時期までの留意事項として、本年

産では育苗期後半に気温が上昇したことから老化苗が多く発生し、早期異常出穂の発生ほ場も多かったことから、穂揃いが悪く、ばらつきの多いほ場が多くなっていることへの対策が必要である。

- (7) 本年産の収穫にあたっては、例年以上に収穫適期の判定は難しく、その期間も短いと考えられることから、今後、各地で行われる適期収穫判定の講習会を活用し、こ

まめに試し刈りを行い、収穫適期の見極めを行っていくことが必要との見解が示された。

- (8) 一方、8月中下旬以降の降雨・寡照により、土壌の乾燥が進まず、状態が悪いほ場が多いことから、適期収穫を行うためには、ほ場の排水を積極的に行う対策も必要との見解も頂いた。

以上



検 査

平成25年産米の初検査

25年産水稻の生育は、融雪遅れや春先の低温・寡照により、は種期から育苗期にかけて、遅延していましたが、移植後は高温多照に経過したことから、生育は急速に早まり、全道的に平年より早く成熟期を迎えました。

穂数・籾数は平年並みかやや少ないものの、稔実歩合が高いことから、平年をやや上回る収量が見込まれています。

本年産米の収穫作業は、8月下旬より、上川・空知の一部地区で開始され、本年度の初検査は8月28日に芦別市で行われました。

整粒歩合・外観品質とも良好であり、全量が1等に格付けされました。

各地区における米穀初検査は、下記の日程で実施され、順次、全道各地において豆類などの農産物検査を実施してまいります。

【各地区の初検査日】

- 9月4日 上川地区
- 9月6日 後志地区
- 9月10日 留萌地区
- 9月11日 日胆地区
- 9月13日 道南地区
- 9月18日 石狩地区

【初検査の概要】

- 1. 刈取日 8月24日(土)
- 2. 検査日 8月28日(水)
- 3. 検査場所 JA たきかわ 芦別検査場
- 4. 銘柄 「ななつぼし」
- 5. 等級 1等
- 6. 数量 33袋/30kg
- 7. 水分 13.8%



芦別検査場 検査風景

麦 作

春まき小麦「初冬まき栽培」のポイント

北海道農政部生産振興局技術普及課 主査（普及指導） 石川 卓 治

春まき小麦は、融雪後できるだけ早くは種することで、十分な生育量を確保し、高収量を可能にします。しかし、融雪期と春先の気象は、年次差が極めて大きく、適期のは種作業ができないことが多く見られます。「初冬まき栽培」は、根雪の直前には種することにより、融雪直後から生育を開始させる究極の早まき技術といえます。

この栽培法は、石狩、空知、上川などの多雪地帯を中心に定着しています。しかし、積雪が少なく土壌凍結する地域では、融雪後の越冬率が不安定で、穂数が十分に確保できない場合があります。栽培に適しません。

1 輪作とほ場の準備

(1) 輪作の徹底

4年輪作に努め、連作による病害虫の発生や、雑草増加による、収量・品質の低下を防ぎます。



写真1 簡易明きよ

(2) 排水対策

融雪時に滞水するほ場では、越冬個体率が著しく劣るため、ほ場の選定と排水対策が重要になります。そのためには、①排水の悪いほ場での作付けを避ける。②簡易明渠の整備を行い、表面滞水を防止する（写真1）。③サブソイラなどによる心土破碎により透排水性を改善する（写真2）。などの対策が必要になります。

(3) 土壌 pH の確認

土壌診断を実施し、pHの矯正を行います。矯正は立枯病などを勘案して、pH5.5を目標とします。

(4) 雑草対策

初冬まき栽培では、は種時の土壌処理除草剤が使用できないので、「スズメノカタビラ」等イネ科雑草の少ないほ場を選定します。



写真2 心土破碎



写真3 スタブルカルチ施工



写真4 砕土の目安

(5) 耕起・砕土・整地

耕起は土壌の練り返しを避けるため、ほ場条件の良い時に行い、粗めに砕土（赤ちゃんの拳大が目安）・整地をします（写真3、4）。

練り返しや細かすぎる整地により、越冬後に土壌が凍結すると、その後の生育が劣るので、散播の場合には特に粗い整地とします。

2 は 種

(1) 種子の準備

紅色雪腐病に効果のある薬剤により必ず種子消毒を実施します。種子消毒をしないと、越冬率が著しく劣る場合があります。

(2) は種時期

春まき小麦は、「秋まき小麦」と異なり、根雪前に出芽（1葉展開）すると越冬性が極

端に劣ります（図1）。は種後、積算気温が115℃に達すると出芽するので、地区の平年根雪始の20日前から根雪までが出芽しないのは種時期となります。ただし、平年の根雪始が12月1日以降の地区は、11月11日以降から根雪始までです。

(3) は種量

一般的に越冬個体率は、条播で50～70%程度、散播で40～50%程度とされています。

越冬後の個体数が150個体/m²以下では、収量が低下する傾向が見られ、200～250個体/m²で収量が安定する傾向が見られます。300個体以上では、過繁茂になりやすく、病気の発生や倒伏などにより、必ずしも増収にはなりません（図2）。

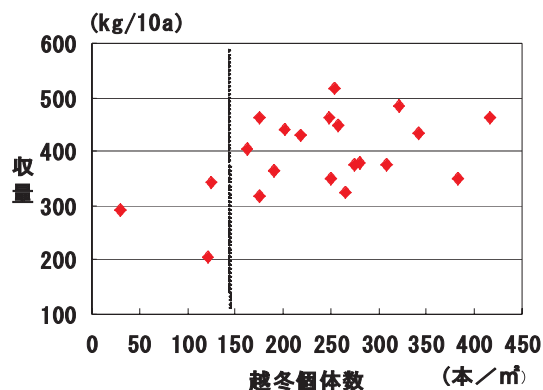


図2 越冬個体数と収量の関係

(空知農改 H20, 21)

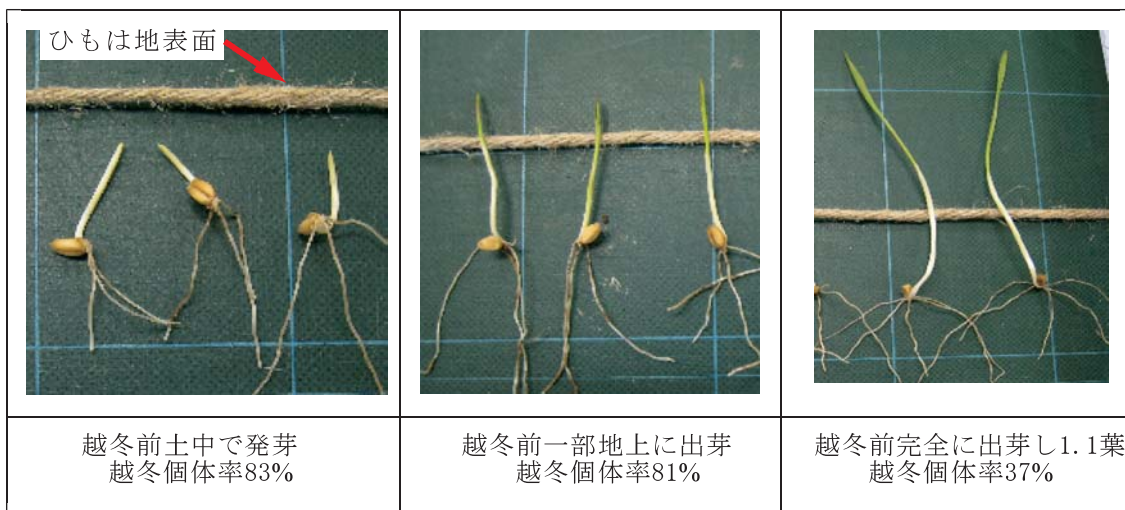


図1 越冬前の出芽状況と越冬個体率 (空知農改 H19)

このため、越冬個体数は200～250個体/㎡程度を目標とします。は種量は、条播で約16～18kg/10a（400粒/㎡程度）、散播で20～23kg/10a（500粒/㎡程度）が必要になります。

(4) は種方法

は種方法は、グレンドリル等による条播（写真5）と、ミスト機やチゼルプラウシダ等による散播に大別されます（表1）。



写真5 グレンドリルは種

3 施肥

基肥窒素は不要です。窒素は融雪直後は場に入れるようになったら速やかに施用します。リン酸とカリは基肥または融雪直後に春まき栽培の標準量を施用します。

初冬まき栽培は、春まき栽培よりも収量は概ね増加し子実タンパク含量は低くなる傾向があります。このため、子実タンパク含量を高めるために後期追肥を実施します（表2）。特に「はるきらり」の初冬まき栽培では、「ハルユタカ」の標準施肥量では子実タンパク含量が基準値を下回る可能性があるため、開花期以降3～4回の尿素葉面散布を行う必要があります（表3）。

上川北部および留萌地域では、地力の高低を考慮した「道北地域における「春よ恋」初冬まき栽培の窒素施肥基準」を参考に施肥を行います（表4）。

表1 初冬まき栽培におけるは種方法

は種法	作業機	長所	短所
条播	グレンドリル	・覆土が可能 ・は種ムラが少ない	・土壌条件が悪いと困難 ・作業時間が長い
散播	チゼルプラウシダ ブロードキャスト ミスト機	・作業が迅速・容易	・は種ムラが生じやすい ・出芽ムラが生じやすい ・は種量を多く要する

表2 「ハルユタカ」および「春よ恋」の基本的な窒素の施肥方法

品 種	窒 素	備 考
ハルユタカ	●融雪直後に9～10kgN/10a程度を施用、止葉期に6kg/10aを上限に追肥する。	<ul style="list-style-type: none"> 融雪後の追肥は、生育量確保のため、ほ場に入れるようになったらなるべく速やかに施用する。 後期追肥により子実の蛋白含有率は、春まき栽培並みとなる。 倒伏が懸念される場合、融雪直後の窒素量を減らしたり、止葉期の追肥を出穂期まで遅らせる。 春まき栽培の「春よ恋」の土壌型区別の窒素施用量は、それぞれ洪積土・火山性土が9kg、沖積土が6kg、泥炭土が3kgN/10aであり、前作や土壌の肥沃度により2～3kgN/10a増減する。
春よ恋	●融雪直後に春まき栽培の標準量より3kgN/10a少ない量を施肥し、開花期以降に尿素葉面散布（2%尿素100g/10aを1週間おきに3回、窒素量で3kgN/10a）、または出穂期に3kgN/10aの追肥を行う。なお、泥炭土では分施を行わず、春まき栽培の標準量を融雪直後に全量施用する。	

※リン酸、カリ：基肥または融雪直後に春まき栽培の標準量を施用する。

※平成7年、平成17年指導参考事項

表3 「はるきりり」の施肥体系

	融 雪 期	止 葉 期	開花期以降	備 考
初冬まき栽培	10kgN/10a	6kgN/10a	3～4kgN/10a (葉面散布3～4回)	開花期以降、春まき栽培に準じて尿素葉面散布を行う。

※リン酸、カリ：基肥または融雪直後に春まき栽培の標準量を施用する。

※平成20年普及推進事項

表4 道北における初冬まき栽培（「春よ恋」）の窒素施肥基準¹⁾

項 目	地 力 区 分		
	低 (L)	中 (M)	高 (H)
熱抽窒素 (mg/100g) 腐植含量 (%)	～5	～10	10～
窒素施肥量 (kg/10a)	融雪期 ²⁾	9	4
	穂揃期 ³⁾	3	3
目標子実収量 (粗麦)	480kg/10a		
目標タンパク含有率	11.5～14.0%		

注1) 土壌診断基準を満たし、心土破碎などの基本技術を実施し、土壌の物理性や化学性が良好なほ場を対象とする。

注2) 倒伏の可能性があるほ場（「稈長90cm以上」または、「稈長80cm以上かつ穂数700本以上」）では減肥する。

注3) 3kg/10aを上限とし、タンパク含有率の過年度実績により減肥する（窒素1kg当たりタンパク含有率0.2%を目安）

※平成22年度普及推進事項

麦 作

第34回（平成25年度）北海道麦作共励会の 参加者・集団を募集しています

～全道の各地から優秀な事例を募集しています
たくさんのご参加をお願いいたします～

※第33回（平成24年度）北海道麦作共励会で最優秀賞に輝いた方々

『表彰式会場にて（平成25年3月1日（金）ホテルモントレエーデルホフ札幌）』

1. 川上修一さん（足寄町）

第1部 畑地における秋播小麦＜個人＞



2. 十勝池田町川合1地区（池田町）

第1部 畑地における秋播小麦＜集団＞



左：吉地さん 右：小澤代表

3. 杉村さんご夫妻（富良野市）

第2部 水田転換畑における秋播小麦＜個人＞



4. 角道さんご夫妻（遠別町）

第3部 全道における春播小麦＜個人＞



※参加申込期日は、10月末です。

詳細は、各地区の米麦改良協会へお問い合わせ下さい。

☆推薦調書用紙（Word形式）は、ホームページからダウンロードできます。

<http://www.beibaku.net/>

良質米麦の出荷目標



一等米 100%
整粒歩合80%以上確保
精米蛋白質含有率6.8%以下
仕上がり水分14.5～15.0%
入れ目1%以上確保
全量種子更新



一等麦 100%
低アミロ麦皆無
DON暫定基準値1.1ppm
以下でできるだけ低いこと
赤かび粒混入限度 0.0%
異臭麦皆無
十分な入れ目の確保
全量種子更新

農産物検査事業の方針

公平、公正、迅速に行う。
必要な技術的能力の維持・向上に努める。
客観性・公平性から他部門からの影響排除。
制度の適正な運営に寄与する。



発行所

一般社団法人 北海道米麦改良協会

〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル5階 TEL 011-232-6495 FAX 011-232-3673

【業務部】E-mail beibaku@basil.ocn.ne.jp

【検査部】E-mail beibaku-kensa@carrot.ocn.ne.jp

北海道米分析センター

〒069-0365 岩見沢市上幌向町216の2 TEL 0126-26-1264 FAX 0126-26-5872

E-mail bun1@plum.ocn.ne.jp

<http://www.beibaku.net/>